

大切にしたい長浜の景観「ながはま百景」 その他応募があった景観

【眺望】

| No. | 名称 | 所在地 | 写真 | 応募者のコメントなど |
|-----|----------------------|-------------|---|--|
| 1 | 国友橋から望む小谷山 | 国友町 |  | ・姉川古戦場に近い国友橋からは、戦国合戦の舞台となった小谷山を正面に見ることができます。その周囲には伊吹に連なる美しい山々が広がり、戦国の浪漫に思いを馳せることができます。 |
| 2 | 古橋の農村風景 | 木之本町 川合 |  | ・国道303号を東に進み、新アットリトンネルを抜けると、田園と山に囲まれた古橋の集落が見えてきます。のどかな田園風景の中で、畔に咲く花々や農業の営みなどが四季折々のやさしい風景を作り出しています。 |
| 3 | 早春の横山岳の眺望 | 木之本町 古橋 |  | ・木之本町古橋からは、目の前を遮るものがなく横山岳をはっきりと望むことができます。早春の頃には、周囲が緑に包まれ始める中、横山岳の山頂は雪で白く輝き、見るものをすがすがしい気持ちにさせます。 |
| 4 | 菅浦湖畔からの眺望 | 西浅井町 菅浦 |  | ・西浅井町菅浦湖畔から雄大に広がる琵琶湖を望むと、空や大地が琵琶湖に溶け込んでいき、湖畔に座って波の音を聞きながら眺めていると時の流れを忘れてしまいそうになります。 |
| 5 | 海津大崎の桜の眺望 | 西浅井町 菅浦 |  | ・船に乗って琵琶湖上から望む海津大崎(高島市)の桜並木は、4kmに渡る600本の桜並木が美しいだけでなく、その背後にある山並みと琵琶湖に映える桜並木もあいまって、一段と感動的な景観となります。 |
| 6 | ひばかりやま 日計山と湖西線の眺望 | 西浅井町 塩津浜 |  | ・田園風景の中に高架橋が架かっており、その背後に日計山があります。人々のくらしが感じられる田園景観と近代的な高架橋の都市的景観とが融合した景観です。 |

【自然】

| No. | 名称 | 所在地 | 写真 | 応募者のコメントなど |
|-----|--------------|-------------|---|--|
| 1 | 郷里五川と田園集落 | 東上坂町 |  | ・長浜平野の扇状地の扇頂にあたる北郷里では、渇水時は農業用水確保に苦しめられ、古くは水争いが絶えなかったところ。このため、姉川に「郷里井堰」を設けて用水を引き入れ、「郷里五川」と呼ばれる5つの川に決められた水量を公平に配水しました。無益な争いを避けるために先人が出し合った知恵の結晶であり、実り豊かな田園とのどかな集落の景観を形づくっています。 |
| 2 | 長浜新川の風景 | 大戌亥町他 |  | ・長浜新川は、市内を流れる薬師堂川、十一川、米川等の河川の洪水を国道8号より上流側でカットし、琵琶湖に放流する新たな河川(放水路)です。 ・人工的な河川ですが、夏にはホタルが飛び交い、小鮎などの小魚が群泳し、カルガモ親子の繁殖やオオヨシキリの飛来も見られるなど、都市部における貴重な自然空間となっています。琵琶湖に沈む夕陽も美しいです。 |
| 3 | 瓜生のカヤの木 | 瓜生町 |  | ・瓜生町にあるカヤの老木で、延宝年間(1673~1681)に作られた検地帳や享保12年(1727)に作られた瓜生村絵図にも描かれており、古くからその存在が知られていました。昭和62年に滋賀県が編纂した滋賀の銘木誌にも紹介されており、瓜生町を代表する木となっています。 |
| 4 | 内保 堂の森 | 内保町 |  | ・集落の中にある森で、巨木も数本あります。周辺住民にとって自然を身近に感じられる憩いの場所となっています。 |
| 5 | 丁野木川の桜並木 | 安養寺町 |  | ・早崎ビオトープを貫く丁野木川沿いには、春ともなると桜並木と菜の花が広がり、美しいコントラストを見ることができます。 |
| 6 | 馬渡堤防の桜並木 | 湖北町馬渡 |  | ・馬渡堤防の桜並木は、昭和5年の昭和天皇御大典記念に植樹されたものです。その後も県の緑化事業や自治会費などで苗木が購入され、今では300本近くになり、中には樹齢80年の老木もあります。 ・馬渡自治会の広報誌名は「さくら坂」で、自治会の方の桜並木への愛着が感じられます。 ・交通量の多い国道8号に面しており、多くの人が春の訪れを感じるスポットになっています。 |
| 7 | 留目 鹿島橋の四季 | 湖北町留目 |  | ・橋と桜が織り成す四季折々の景観が楽しめ、春の桜、夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色など季節によって違った表情を見せます。特に雪が降り積もったときは、一面が純白の雪に包まれる中、鹿島橋とのコントラストが格別です。 |
| 8 | 西阿閉水質保全公園 | 高月町西阿閉 |  | ・平成12年から平成16年まで5ヶ年をかけて整備されたビオトープ施設で、稀少植物や水生昆虫が生息しています。小学生や幼稚園児の自然体験学習の場として、また地域住民の憩いと安らぎの場として活用されている親水空間です。 |
| 9 | 高時川から見る月の景観 | 高月町雨森、高月町柏原 |  | ・己高山の南側の峰線より昇る月が小谷山にかけて移っていき、満月のときは特にすばらしいです。時間に追われる日々の生活の中で、時には立ち止まってゆっくりと動く月の軌跡を見るのもまた一興です。 |
| 10 | 湖に落ちる雲の滝 | 高月町片山 |  | ・厳冬期にできる雲の滝で、高月町西野側でできた霧が山を越えて高月町片山側に降り、そのときの雲の流れが滝のように見えます。雨が止んで晴れた翌朝、急に気温が下がった無風の日によく見られます。 ・稜線に沿って琵琶湖へと流れ落ちる雲はまるで滝のように見え、神秘的な景観から自然の素晴らしさを改めて実感できます。 |
| 11 | 黒田 余呉川堤防の桜並木 | 木之本町黒田 |  | ・木之本町黒田の余呉川堤防沿いには桜並木が広がり、おだやかな余呉川の水面に桜並木が映え、そこに周囲の山々も溶け込み、一体的な景観が形成されます。 |
| 12 | 杉野の火伏せのイチヨウ | 木之本町杉野 |  | ・杉野集落(木之本)にあるイチヨウの大木は、江戸時代、大火から村を守ったと伝えられており、このことから火伏せのイチヨウと呼ばれ、地域の人々から大切にされてきました。集落の小高い場所にあり、今も人々を見守り続けています。 |
| 13 | 高時川と杉野川の合流 | 木之本町川合 |  | ・高時川と杉野川の水の色は、よく見ると少し異なります。合流部で二つの河川が混じり合う様は言葉には言い表せず、見ていて飽きません。特に雨降りの後は水量が増し見ごたえがあります。 |
| 14 | 栃ノ木峠のトチノキ | 余呉町中河内付近 |  | ・栃ノ木峠は滋賀県と福井県の県境にある峠で、峠付近にトチノキが群生していたためにこの名がついたと言われ、現在も樹齢450年を超えるトチノキがあります。 ・栃ノ木峠からの見晴らしはよく、はるか遠くまで見渡せ、また秋には一面に山々が紅葉し、その眺望はまた格別です。 |

| | | | | |
|----|--------------------------|--------|---|--|
| 15 | 余呉駅からの田園風景 | 余呉町下余呉 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・余呉駅から降りてすぐ目に飛び込んでくるのが、一面に広がる田んぼと余呉湖です。のどかな自然の中で人工物がほとんど見られず、まるで昔にタイムスリップしたかのような気持ちになります。 |
| 16 | 中河内のザゼンソウ群落 | 余呉町中河内 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・県内でも少ないザゼンソウ群落を集落近くで見ることができます。お坊さんが法衣をかぶって座禅を組んでいる姿に例えられることから、ザゼンソウの名が付いたといわれています。 ・周辺には北方種のユキツバキが生息しており、その中には南方種との中間型であるユキバツバキも生息しています。 ・中河内のザゼンソウ群落とユキツバキは滋賀県の天然記念物に指定されています。 |
| 17 | 野坂山の紅葉 | 西浅井町野坂 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・野坂集落(西浅井)の裏手にある山の新緑や紅葉はとても鮮やかで、ふもとから眺めるもよし、国道8号など少し離れた場所から眺めるもよしの景観です。 |
| 18 | やのま 岩熊のコウホネ群落とミズアオイ群落 | 西浅井町岩熊 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・岩熊集落(西浅井)で大切に守り育てられているミズアオイとコウホネの群落です。ミズアオイは、青紫色の美しい花をつけ、環境省の絶滅危惧種にも指定されています。コウホネは、黄色い花をつけ、庭園の鑑賞用としても利用されています。 |

【社寺】

| No. | 名称 | 所在地 | 写真 | 応募者のコメントなど |
|-----|-------------|---------|---|--|
| 1 | 名越の紅葉 | 名越町 |  | ・名越町の名超寺から後鳥羽神社の社殿にいたる境内では、毎年見事な紅葉が見られます。後鳥羽天皇(上皇)にゆかりの両社寺は、さまざまな時代の波に翻弄されながらも、現在は静かなたたずまいを見せており、秋は紅葉で彩られます。 |
| 2 | 勝山の杉 | 東上坂町 |  | ・元亀元年(1570)の姉川の合戦の際、徳川家康が陣を構えた勝山には流岡神社があります。その御神木であるスギは、樹高27m、幹周5.7m、樹齢1300年といわれ、人々に大切にされてきました。合戦のときには木の梢が枯れ果てたと伝えられ、当時の戦さの激しさが偲ばれます。 |
| 3 | 多田幸寺の庭園 | 田村町 |  | ・多田幸寺は、市内南部にある田村山の麓にある臨済宗妙心寺派の寺院です。平安時代末期に源賢が天台宗で開きました。本尊の薬師如来坐像は国の重要文化財です。 ・田村山の南斜面を利用した庭園にはツツジとサツキが植えられています。花が咲く5月頃、庭一面が明るく華やいた雰囲気につつまれます。 |
| 4 | 熊岡神社の石段 | 常喜町 |  | ・宝亀3年(772)の創建とされる熊岡神社は、鳥居をくぐると本殿まで91段の石段が続いています。5月の春祭りには、若い衆らが町内から神輿をかつぎ、この石段をのぼっていきます。語り伝えられてきた金太郎伝説とともに、人々に大切に守られてきました。 |
| 5 | 大路の湯次神社 | 大路町 |  | ・大路町の湯次神社は、安康天皇元年(454)の創建といわれる古社です。元禄時代の記録によると、湯次荘の総社で南は今庄、西は細江、北は三川など48村を擁していたとされます。広い境内は多くの樹木で囲まれ、春には美しい桜が咲き誇ります。 |
| 6 | 称名寺(尊勝寺城) | 尊勝寺町 |  | ・浄土真宗系の寺院が多い湖北地域では、戦国時代に湖北十ヶ寺と呼ばれる強力な寺院群が結成され、浅井氏と組んで信長と対抗しました。称名寺はその湖北十ヶ寺の一つです。今も称名寺と平野神社を中心に土塁などの遺構が残され、民衆の厚い信仰心を偲ぶことができます。 |
| 7 | 瓜生 日吉神社の紅葉 | 瓜生町 |  | ・天智天皇10年(671)の草創と伝えられる瓜生町の日吉神社は、浅井亮政・久政父子が崇敬していた神社です。秋にはモミジとイチヨウが境内を彩ります。 |
| 8 | 醍醐寺の桜 | 醍醐町 |  | ・醍醐寺は真言宗の古刹で、後白川天皇の御代に創設されました。国の重要文化財に指定されている本尊をはじめ、古文書など、多数の寺宝が保存されています。 ・醍醐寺の門前の桜は、太い幹に対して繊細な枝が桜の花を引き立て、落ち着いた寺院の景観に合っています。 |
| 9 | 岡高神社のカタクリ群落 | 北ノ郷町 |  | ・雄略天皇3年(459)にスサノオを祀ったことが始まりとされる岡高神社は、白鳳13年(685年)に現在の地に移されました。 ・この境内には地元の方が大切に育てているカタクリが生息し、早春には美しい紫の花を咲かせます。 |
| 10 | 竹生島の一の鳥居 | 早崎町 |  | ・早崎集落(びわ)の東のはずれに「竹生島の一の鳥居」があります。落ち着いた田園風景の中で、その雄姿を見せています。 ・鳥居のかたわらの石標には、天明6年(1786)、江戸芝井町の江島屋甚兵衛らが講元になって鳥居講を結び、近江出身者らの協力を得てこの鳥居が建立されたことが刻まれています。 |
| 11 | 岡本神社 | 小谷丁野町 |  | ・岡本神社は、嘉吉年間(1441~1444)に三条公綱公が丁野に配流された際、建立されたと伝えられる神社で、浅井氏代々の祈願所となっていました。 ・観音堂の後ろにあるイチヨウは「三条公綱公お手植」と記されており、このイチヨウの銀杏を持ち帰って食べると乳の出が良くなるといわれていることから、母乳の観音様の銀杏の木と呼ばれています。境内には7本のイチヨウの木があり、秋にはイチヨウの黄色い絨毯が一面に広がります。 |
| 12 | 唐喜山赤後寺 | 高月町唐川 |  | ・赤後寺に安置される千手観音立像と聖観音立像は、国の重要文化財の指定を受け、災い転じて利となす「転利(コロリ)観音」といわれ、全国から信仰を集めています。毎年7月10日は千日会法要があり、多くの方が参拝に訪れます。 |
| 13 | 茅葺の西徳寺 | 木之本町赤尾 |  | ・西徳寺は、15世紀中頃、浄土真宗の道場として開かれたことが始まりと伝えられ、現在の本堂は正徳3年(1713)に建てられました。 ・本堂は初期の在郷真宗本堂としての成立過程を示す貴重な建物として国の重要文化財に指定されており、シンプルでありながら整った茅葺屋根が美しいです。 |
| 14 | 意富布良神社の四季 | 木之本町木之本 |  | ・意富布良神社(おおふらじんじゃ)は飛鳥時代草創の古社です。古くから交通の要衝にあつたため、多くの武将がこの神社を訪れたといわれています。 ・鳥居をくぐると広大な境内が広がり、春は桜、夏は蝉時雨、秋は紅葉、冬は雪景色と一年を通して楽しめます。 |

| | | | | |
|----|------------|---------|---|---|
| 15 | 廣峯神社のケヤキ | 余呉町中河内 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・長浜市の最北端に位置する余呉町中河内は、標高が高く雪の多い山間地です。厳しい環境の中で暮らせることに感謝した人々は、建長元年(1249)に廣峯神社を建立したと伝えられます。 ・境内にはケヤキの大木があり、あまりの大きさにその姿をカメラに収めるのも一苦勞です。 |
| 16 | 腹帯観音 | 西浅井町大浦 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・安産の仏様として親しまれており、昭和34年(1959)、美智子皇后陛下が皇太子を懐妊された時に腹帯を献納し、全国的に有名になりました。ごちんまりとした観音堂ですが、遠方からも多くの方が安産祈願にこられます。 |
| 17 | 應昌寺のウラジロガシ | 西浅井町塩津中 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・應昌寺は一休禪師の師である華叟宗曇(かそう そうどん)禪師が退隱されたのちに居住された寺院であり、華叟宗曇禪師の墓石があります。應昌寺の裏手の山にはウラジロガシの巨木があり、その大きさや枝ぶりに圧倒されます。 |
| 18 | 正應寺とその山門 | 西浅井町余 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・正應寺は源定綱の寄進により開創されたと伝わる格式高い禅寺です。福井県にある曹洞宗大本山の永平寺より移築されたと伝わる山門があります。 |
| 19 | 日吉神社のツブラジイ | 西浅井町横波 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・日吉神社境内の中には、南北朝時代の戦乱に関する石碑が残っており、境内地に「横波五輪塔」の名で安置されています。境内には巨木のツブラジイがあり、時代の変化を見てきた巨木が歴史の営みを伝えてきます。 |
| 20 | 五社神社の虎の尾桜 | 西浅井町八田部 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・五社神社の「虎の尾桜」は、普通の桜とは一風変わった珍しい桜です。春の祭礼の時期に満開となり、神社は華やかな雰囲気になります。 |
| 21 | 白山神社の杉の巨木 | 西浅井町山田 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・白山神社の境内には樹高約60mの杉の巨木があり、杉の木立を抜けて吹く風は、蒸し暑い夏でも涼しさを感じさせ、境内は厳かな雰囲気に包まれています。 |
| 22 | 深高院 | 西浅井町中 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・昭和9年、深高院29世の発願で開設された寺院で、和尚自らが西国霊場を巡り祀られている砂利を持ち帰って供養し、深高院山の霊場に埋め祀りました。 |
| 23 | 正福庵のツブラジイ | 西浅井町庄 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・正福庵は集落を見下ろす小高い場所にあり、巨木のツブラジイと正福庵の風景が荘厳です。以前はツブラジイのどんぐりを食べるために子どもたちがこの木のもとに集まったといわれています。 |

【建造物】

| No. | 名称 | 所在地 | 写真 | 応募者のコメントなど |
|-----|---------------------|----------|---|--|
| 1 | 下坂氏館跡 | 下坂浜町 |  | ・下坂氏は近江国坂田郡下坂庄の国人領主でした。国史跡に指定されている下坂氏館跡は、室町時代の土塁、堀、主郭、副郭、腰郭の遺構が残っており、滋賀県下においても屈指の平地城館遺構です。下坂氏は京極氏との関係や浅井氏との関係上重要な存在であり、遺構の残りも極めて良好で貴重なものです。 |
| 2 | 鍾秀館 | 朝日町 |  | ・長浜出身の実業家である初代・下郷傳平氏が設立した(財)下郷共済会は、明治36年に私設博物館「鍾秀館」を開設しました。 ・(財)下郷共済会では、平成21年に事務所兼博物館となる新たな「鍾秀館」を北国街道沿いに建設しました。赤レンガを用いた洋風の外観により、新たなまちの景観が生み出されました。 |
| 3 | 豊国神社の虎石 | 南呉服町 |  | ・長浜城が築かれた際、加藤清正が寄進した石は、清正公の通り名の虎ノ介から「虎石」と名づけられたそうです。現在は、豊国神社境内のひょうたん池のすぐそばに、木々に囲まれるようにしてひっそりとあります。 |
| 4 | KBセーレン長浜工場(旧カネボウ工場) | 鐘紡町 |  | ・現在、KBセーレン長浜工場となっている旧カネボウ工場は、昭和5年に東洋一の絹布工場として操業を開始しました。のこぎり屋根の工場や、高くそびえる煙突、木造の宿舎など、産業の近代化の歴史を感じさせる印象的な建造物が今も残っています。工場内には、昭和20年にアメリカの戦闘機が機銃掃射したときの弾の痕が残っています。 |
| 5 | 沿道景観と古墳群 | 八島町 |  | ・国道365号は、北国脇往還として東海と北陸を結ぶ幹線道路であり、沿道には瓦屋根の家が建ち並ぶ集落が点在し、田園や山なみと一帯となって落ち着いた景観をつくっています。八島町の沿道には亀塚古墳や岡の腰古墳があり、特徴ある風景を生んでいます。 |
| 6 | 三田村氏館跡 | 三田町 |  | ・三田村氏は京極氏、浅井氏に仕えた家臣で、姉川北岸で大きな勢力をほこりました。国史跡に指定されているその屋敷跡は、約60m四方の土塁(高さ2~3m)に囲まれた平地城館で、館の入口にあたる虎口が良好に残るなど、その旧状をしのぶことができます。姉川合戦に際しては、朝倉景健の本陣として使用されたと考えられています。 |
| 7 | 浅井文化スポーツ公園 | 大依町、西主計町 |  | ・文化ゾーンである「お市の里」には図書館や歴史民俗資料館があります。その中の「セリん館」は鍛冶屋町(浅井)の庄屋宅を移築再現した葦葺き入母屋造りの建物です。 ・他にも野球場やテニスコート、シンボリックな希望の塔などがあり、湖北の文化や歴史を学び運動に興じる拠点として素晴らしいところです。 |
| 8 | 太古の祈り 丸山古墳 | 三川町 |  | ・丸山古墳は、県内最古級の円墳です。多数の古式土師器とともに青銅製の舶載鏡が出土しました。これは中国の新から後漢初期に製造された唐草紋緑細線式獣帯鏡で、日本初の出土でした。かつてこの地に有力な支配勢力があったことを窺わせます。 |
| 9 | 民宿文右エ門 | 余呉町川並 |  | ・余呉湖畔にたたずむ「民宿文右エ門」は、かつて柴田勝家が栃ノ木峠に建てた茶屋を移築したものといわれています。敵方であった秀吉もこの茶屋に立ち寄り、出された栃餅が大変気に入ったそうです。 |
| 10 | めんじゅ毛受兄弟の墓 | 余呉町池原 |  | ・柴田勝家に仕えた毛受兄弟は、賤ヶ岳合戦の際に勝家の身代わりとなって亡くなりました。秀吉もこのことに感動し、亡骸をねんごろに葬り、僧に弔いを依頼したといわれています。 |
| 11 | にぎわいの水の駅 | 西浅井町塩津浜 |  | ・平成18年にオープンした「奥びわ湖水の駅・あぢかまの里」は、特産品販売やお食事処、情報交流館などがある道の駅で、多くの住民や観光客らでにぎわいます。 |

【まちなみ】

| No. | 名称 | | | 応募者のコメントなど |
|-----|-----------|------------|---|--|
| 1 | 石田町のまちなみ | 石田町 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・石田町は、秀吉公に才能を見出され、五奉行の一人として手腕を発揮した戦国武将・石田三成公の出生地です。 ・石田屋敷跡を中心とする一帯では、街路灯の整備やモニュメントの設置など、三成公の里づくりが行われています。 |
| 2 | 姉川付近の北国街道 | 酢 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・路傍にひっそりと建つ道標が北国街道を歩き交う人々の姿を彷彿とさせます。また、寂寥感ある雪景色がよく似合います。 |
| 3 | 石道集落のまちなみ | 木之本町 石道 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・いも洗いの水車のまわる集落の坂道を上ると、石道寺のお堂が見えます。秋には紅葉の中にもみる古いお堂がとてもきれいです。 |

【くらし】

| No. | 名称 | 所在地 | 写真 | 応募者のコメントなど |
|-----|--------------|-------------|---|--|
| 1 | 須賀谷の集落 | 須賀谷町 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・須賀谷は、小谷山南東麓の谷間にある集落です。かつて浅井氏の平時のための屋敷が建てられていたところであり、また「賤ヶ岳七本槍」の一人、片桐且元の出生地としても知られています。 ・このひっそりとした自然豊かな山里に須賀谷温泉があります。戦国時代には浅井長政や夫人のお市、またその家臣の武将たちが湯治に訪れたといわれる名湯です。 |
| 2 | 糸取り | 木之本町 大音 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・湖北ではもともとちりめん、ビロードなどの織物産業が盛んでした。木之本では賤ヶ岳から流れる良質の水や適度な湿度、原料の生糸の良さなど、製糸に恵まれた条件を生かした琴糸・三味線糸づくりを行っており、全国一の生産量(約8割)を誇ります。「邦楽器原糸製造」として国選定保存技術となっており、日本の伝統音楽を支えてきました。 ・現在、桑を栽培し蚕を育てる養蚕農家はなくなりましたが、長野産の繭を原料に和楽器の糸を紡ぐ家が5軒ほど残り、地元の主婦らが伝統の糸取りを見せてくれます。 |
| 3 | 秋葉祭のおみこし | 木之本町 木之本 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・毎年3月18日に木之本で行われる全国でも珍しい防火祈願のお祭りです。春の訪れを告げるかのように勇ましい掛け声とともに、法被姿の若衆たちが重さ2トンもある大御輿を担いで街を練り歩きます。 |
| 4 | 丹生の茶わんまつり | 余呉町上 丹生 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・茶わんまつりは、余呉の丹生で概ね3年に1度行われる「湖北の奇祭」とも呼ばれるまつりです。数千もの陶器を巧みに組み合わせた曳山巡行は見ものです。歌舞伎や物語から芸題を取り、その場面を人形と陶器でうまく組み合わせ、高さ10mにまで積み上げられます。その華麗さと絶妙なバランスに観衆はどよめきます。 |
| 5 | 集福寺のちゃんちゃこ踊り | 西浅井町 集福寺 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんちゃこ祭りは、集福寺(西浅井)の下塩津神社で毎年8月16日に行われる例大祭で、花笠・太鼓踊り・武者行列など優雅で素朴な祭りです。 ・花笠踊りは平安朝の女官の外出姿、武者行列は豊臣秀吉の賤ヶ岳合戦の戦勝を祝ったもので、北国街道繁栄の影響を受けたと思われる文化や風俗が取り入れられており、かつて北国街道を頻りに往来していた都人の影響が感じられます。 |
| 6 | 矢合神社春の大祭 | 西浅井町 岩熊 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・岩熊(西浅井)にある式内社・矢合神社では、4月15日に春の大祭が行われます。巫女や雅楽、みこしなどで境内はにぎわいます。 |
| 7 | 黒山の石仏群とお地蔵様 | 西浅井町 黒山 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・天正11年(1583)、賤ヶ岳の合戦の折、柴田勝家配下の武士たちは、負け戦を予測し、各々の家族を黒山に隠れ住まわせました。武士たちは皆、討ち死し、残された家族がその菩提を弔って、お墓の代わりに石仏を奉ったといわれています。そばにはイチョウの大木があり、秋には落葉のじゅうたんが敷き詰められます。 ・また、集落のはずれには、巨大石に刻まれた2体のお地蔵さまがあり、中山間地域の水田農地と里山の風景と相まって、安心と癒しを感じさせてくれます。 |